

# むいかまちいせき 六日町遺跡

所在地 とわだし おおあざあいさかあざたかみ  
十和田市大字相坂字高見

時代 じょうもんじだい ならじだい へいあんじだい  
縄文時代、奈良時代、平安時代

出土遺物 じょうもんどき はじき すえき  
縄文土器、土師器、須恵器

出土遺構 おとしあな たてあなじゅうきよあと たてあなたてもものあと  
陥穴、竪穴住居跡、竪穴建物跡

報告書名 2002年 六日町遺跡(十和田市教育委員会)

2006年 六日町遺跡Ⅱ(十和田市教育委員会)

## 解説

市街地の南東約5.5 km、おいらせがわさがん奥入瀬川左岸の河岸段丘上にあり、2002年、2005年にはくつちようさ発掘調査がおこなわれました。

奈良時代～平安時代の竪穴住居跡7軒が発見され、当時の集落しゅうらくの一部があきらかとなりました。竪穴住居跡のうち最大のものは長辺11.4m×短辺10.5mもあり、県内でも有数の規模を持ちます。

住居跡からは土師器や須恵器が出土したほか、「又」「千」「王」のような文字または記号がすみか墨書きされたぼくしょどき墨書土器が出土しました。

相坂地区では、「あいさか相坂(2)遺跡」「いせき大和田遺跡」「たかみ高見(1)遺跡」でも同時期のムラの跡が発見されています。



大型竪穴住居跡



墨書土器